

## I 研究主題

# コミュニケーション能力 (伝え合い、学び合う児童) の育成をめざして

—国語・算数の授業を通して—

## II 主題設定の理由

### (1) 今日的な課題から

平成23年度より、新しい学習指導要領に基づいた教育課程が実施される。その新学習指導要領では、「生きる力」の育成が引き続き継承されている。また、「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視。」「豊かな心や健やかな体の育成。」が基本的な考え方として挙げられている。

その中で、特に「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動例」として、以下のものがある。

#### 学習活動例

- ・体験から感じ取ったことを表現する。
- ・事実を正確に理解し伝達する。
- ・概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ・情報を分析・評価し、論述する。
- ・課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ・互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

これらの内容から、「言語活動の重視」がうかがえる。

これは、各教科に取り入れられ、国語はもちろんのこと、算数の中でも、表現力に関する記述が見られる。

#### ★国語科改訂の趣旨より

・・・特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に・・・

#### 国語科の目標より

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め尊重する態度を育てる。

#### ★算数科の目標より

「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しを持ち筋道立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」

↓

考える能力と表現する能力とは互いに補完しあう関係にあるといえる。・・・授業の中では、様々な考えを出し合い、お互いに学び合っていくことができるようになる。

これらのことから、「互いの考えを伝え合う」力や「お互いに学び合う」ことが重要であることが感じられる。

さらに千葉県の「学校教育指導の指針」、本君津市の「いきいき君津っ子」では、表現力や、伝え合う活動について述べられている部分がある。

### 千葉県学校教育指導の指針

人生を拓く「確かな学力」をはぐくむ  
・「自ら学び、思考し、表現する力」

思いやりのある「豊かな心」をはぐくむ  
・豊かな人間性や社会性の育成

### いきいき君津っ子

I 確かな学力の育成と個性の伸長

(1) 基礎・基本の確実な定着と活用力の育成

③一人一人が主体的に思考・判断する活動を積極的に取り入れ、見通しを立てたり・振り返ったりする過程を重視するとともに、言葉を通して伝え合う活動を充実させるなど、実生活に結びつけた学習の充実を図る。

## (2) 学校教育目標から

さて、本校の学校教育目標は、

**豊かな心を持ち、かしこく、たくましく生きる児童の育成**

これに向けて、めざす児童像・学校像の中には、

#### めざす児童像より

○よく考える子ども

進んで学習に取り組み、ねばり強く考える児童の育成

・進んで学ぶ子・方法を工夫する子・自分で表現できる子

#### めざす学校像・校歌より

鍛えよ友よ 身とこころ 根性に耐える 誇りあり

・ともに学び合い、鍛え合い、高め合う学校

とあり、まさしく新学習指導要領と合致する部分である。

私たちの日々の授業は、単に知識や技能を身に付けるためだけに行うのではない。授業の中で、子どもたちが、お互いに考えを交流し、時にはぶつかり合い、時には譲り合う。そして、自分や相手の立場や考えを尊重しながら、考えを広げたり、深めたりしていく。やがて、その活動によって相手を、そして自分自身を向上させていく。このような授業は、まさしく理想的な社会の原点ではないだろうか。そんな授業を、そんな学級集団をめざしたい。

### Ⅲ 目指す児童の姿

私たちが育成をめざす、コミュニケーション能力とは、国語でいう「伝え合う力」とほとんど同義語ととらえる。

では、「伝え合う力」とは・・・

**「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」**である。(学習指導要領解説 国語編P. 9)

また、「学び合う」とは・・・

**「授業の中で、個だけではなく、友達とお互いに考えを伝え合わせ、考えを深めたり広げたりする。その活動によって、多様な価値観に触れながら、自分の考えを見つめ直し、お互いを高め合い、より良く生きようとする姿。」**と捉える。

そこで、国語と算数では、「伝え合い、学び合う児童」の姿を具体的に以下のように考える。

#### 国語

低学年	<ul style="list-style-type: none"><li>・相手に応じて、大事なことを順序よく、はっきりした発音で話すことができる。</li><li>・集中して話を聞き、話題に沿って話し合い、自分の考えをもつことができる。</li></ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"><li>・相手や目的に応じて、根拠をもとに筋道を立てて話すことができる。</li><li>・互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合い、自分の考えをまとめることができる。</li></ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"><li>・目的や意図に応じて、話の構成を考えながら、わかりやすく話すことができる。</li><li>・互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合い、自分の考えを深めることができる。</li></ul>

#### 算数

低学年	<ul style="list-style-type: none"><li>・絵や具体物、言葉などを使って、自分の考えを表すことができる。</li><li>・話し合いの場で、自分の考えと友達の考えを比べ、共通点や相違点がわかる。</li></ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"><li>・言葉・図・表・グラフ・式などを使って、自分の考えを表すことができる。</li><li>・話し合いの場で、自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点に気づき、いろいろな考え方を理解することができる。</li></ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"><li>・言葉・図・式・表などを使って、自分の考えをわかりやすく表すことができる。</li><li>・話し合いの場で、自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点に気づき、いろいろな考え方を理解したり、その中からより良い解決方法を見出したりすることができる。</li></ul>

## V 研究の目的

伝え合い、学び合う児童を育成するために、国語と算数の授業において、重点を設定し、指導・実践はどうあるべきかを探る。

## VI 研究内容と方法

下記の事柄を重点に、授業研究に取り組んでいく。

### 重点

自分の考えをもたせ、広げ合う場を設定し、お互いを認め合いながら、個の考えの深まりや広がりにつづかせる。

### 国語における重点に迫るための手立て

- (1) 自分の考えをもたせるために、学習課題を明確にし、読む活動や書く活動を取り入れる。
- (2) 互いに学び合わせるために、学習形態の工夫をする。

### 算数における重点に迫るための手立て

- (1) 自分の考えをもたせるために、導入の工夫を図り、自力解決の時間における支援の仕方を考える。
- (2) 互いに学び合わせるために、発表の場の工夫をする。

○研修日 毎週木曜日 15時10分から16時30分

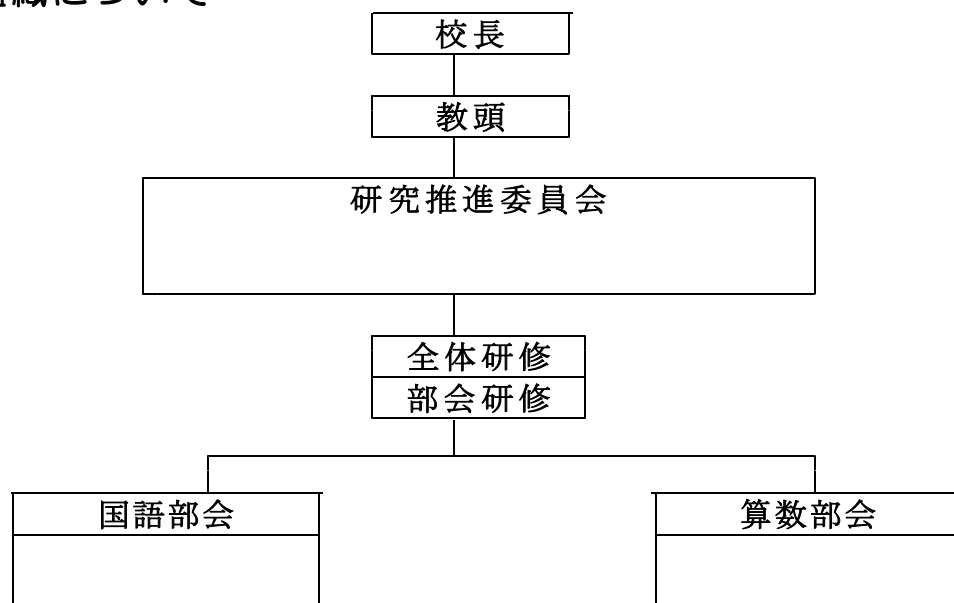
○研修場所 全体会・・・会議室  
部会・国語・・・図書室 算数・・・会議室

○授業研究 全員1回授業研究を行う。(2学期以降に実施予定)

### ○授業研究会の取り組み方

- ・研究授業は、全員行う。
- ・指導案検討は、国語・算数部会に分かれ、基本的に三週間前と二週間前の二回行う。
- ・協議会は部会ごとに行う。
- ・参観者は授業の感想(批評箋)を必ず書く。
- ・授業研のうち、一度は、国語と算数の交流授業を行う。

## Ⅶ 研究組織について



## Ⅷ その他の研修について

※若年層研修（わかば塾）（初任研については別紙参照）

対象者：経験年数5年未満

- ・授業研以外に一回授業を展開する。（略案作成）
- ・初任研と同時開催で、先輩の先生方の授業を参観する。
- ・協議会は授業者、同学年、校長、教頭、教務、研究主任、（教科主任）で行う。
- ・若年層研修の講師は、基本的に校内の教科主任を充てる。

※国語・算数以外の研修について

- ・アンケートをもとに、実践的な研修を行う。